

## 大分県内の「お接待」

近年、お接待は姿を消しつつあり、知らない世代が増えています。消えゆく伝統行事、お接待とはどんな行事なのでしょうか。

お接待といえども四国巡礼が思い浮かびます。『四国遍路の民衆史』にはお接待について次のように書かれています。お接待の考え方がよく分かると思います。

“「接待」という名の福祉活動遍路を助けようどんな貧しい人でも長旅の遍路に出られたのは、地元四国で「接待」という行為がなされていたからである。

つまり、遍路している人を助けるために、米・味噌・野菜の食べ物や、わらじ、手拭、ちり紙などの必要品を与えてねぎらう風習がそれである。…遍路者を信仰心厚い求道者として遇する社会の同情も消えることはなかった。…また接待が積極的に行われたもう一つの大きな理由は、…遍路への施しが大師（弘法大師空海）への供養・報謝と同意義だという感覚が育まれたからでもある。…”

このようにお接待とは大師信仰から生まれた風習・行事で、寺社への参拝者に飲食物をふるまうことですが、一般には弘法大師を信仰する人々が、毎年旧3月と7月の21日に大師の像をまつり、参拝者に菓子やモチ・握り飯などを接待することをいいます。

大分県立図書館  
豊の国情報ライブラリー  
<https://www.oitalibrary.jp/cat4/cat>

### 大分合同新聞

2025年4月23日(水)

## 国東市国見町 「大お接待」子どもニコニコ



弘法大師の像に手を合わせ、菓子を  
受け取る子どもら＝国東市国見町

【国東】国東市国見町で20日、恒例の「大お接待」があった。弘法大師を信仰する人々が大師の像をまつり、餅やおにぎりなどを振る舞う行事。町内では毎年、4月中旬ごろに開催している。

今年は熊毛と岐部、伊美、竹田津各地区の計約30カ所であった。熊毛地区公民館では、地元若者でつくる親話会（上園道隆会長）などが実施。準備した菓子約300個は15分ほどでなくなった。宮崎乙葉さん（7）＝大分市、明治小2年＝は「おじいちゃん came。好きなお菓子がもらえてうれしい」と喜んだ。

上園会長（44）は「限界集落と呼ばれることもあるが、世代を超えて交流することで地域力が高まる。育ててくれた地域への恩返しとして続けていきたい」と話した。（佐藤英司）